

科目名	人体の仕組みと働き	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			1年	
区分	専門基礎分野						
担当者	廣瀬純成	資格	医師	実務経験	有・無	時間	13時間
担当者	高山雄次	資格	医師	実務経験	有・無	時間	17時間
担当者	臼谷佐和子	資格	医師	実務経験	有・無	時間	21時間
担当者	富田佳佑	資格	医師	実務経験	有・無	時間	19時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>人の身体の状況を把握するため、身体の構造と機能の概要について系統的に理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <p>1. 人体の形態や構造、各部の機能について、細胞からはじまり各器官系までが理解できる。 2. 対象の身体の内部で生じている異常の意味を科学的に理解し、対象が示す症状や状態が何にどのように由来するのかを、正確に見る基礎を身につけることができる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><廣瀬純成></p> <p>1. 第1章 総論 \ 第2章 人体の構造 第3章 人体の器官系 6. 第4章 運動器系 7. 筆記試験・まとめ</p> <p><高山雄次></p> <p>1. 第5章 体液 \ 第6章 循環系 8. 第9章 体温 9. 筆記試験・まとめ</p> <p><宮本章仁></p> <p>1. 第7章 呼吸系 \ 第8章 消化・呼吸系 8. 第10章 泌尿器系 9. 筆記試験・まとめ</p> <p><臼谷佐和子></p> <p>1. 第11章 生殖器系 \ 第12章 内分泌系 第13章 神経系 11. 第14章 感覚器系 12. 筆記試験・まとめ</p>							
<p>教科書</p> <p>メヂカルフレンド社 看護学入門1 人体のしくみとはたらき</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	看護からみる人体のしくみ	必修・選択	授業形態			開講時期																																								
			講義			2年																																								
区分	専門基礎分野																																													
担当者	青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	35時間																																							
<p>授業の目的・ねらい いのちを支えるからだのしくみの人体の解剖（構造）と生理（機能）について、日常生活行動を通して理解する。</p>																																														
<p>生徒の到達目標 1. 生活行動からからだのしくみと生理を理解し、日常生活行動を援助する看護技術が理解できる。</p>																																														
<p>授業概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1.～2.</td> <td>第1章</td> <td>何のための生活行動か</td> </tr> <tr> <td>3.～4.</td> <td>第2章</td> <td>恒常性維持のための物質の流通</td> </tr> <tr> <td>5.～6.</td> <td>第3章</td> <td>恒常性維持のための調節機構</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第4章</td> <td>動く</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第5章</td> <td>食べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第6章</td> <td>息をする</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第7章</td> <td>トイレに行く</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第8章</td> <td>話す・聞く</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第9章</td> <td>眠る</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第10章</td> <td>お風呂に入る</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第11章</td> <td>子どもを生む</td> </tr> <tr> <td>15.～16.</td> <td>第12章</td> <td>外部環境とからだ -人類誕生時の環境と今</td> </tr> <tr> <td>17 } 18 }</td> <td colspan="2">筆記試験・まとめ</td> </tr> </table>								1.～2.	第1章	何のための生活行動か	3.～4.	第2章	恒常性維持のための物質の流通	5.～6.	第3章	恒常性維持のための調節機構	7	第4章	動く	8	第5章	食べる	9	第6章	息をする	10	第7章	トイレに行く	11	第8章	話す・聞く	12	第9章	眠る	13	第10章	お風呂に入る	14	第11章	子どもを生む	15.～16.	第12章	外部環境とからだ -人類誕生時の環境と今	17 } 18 }	筆記試験・まとめ	
1.～2.	第1章	何のための生活行動か																																												
3.～4.	第2章	恒常性維持のための物質の流通																																												
5.～6.	第3章	恒常性維持のための調節機構																																												
7	第4章	動く																																												
8	第5章	食べる																																												
9	第6章	息をする																																												
10	第7章	トイレに行く																																												
11	第8章	話す・聞く																																												
12	第9章	眠る																																												
13	第10章	お風呂に入る																																												
14	第11章	子どもを生む																																												
15.～16.	第12章	外部環境とからだ -人類誕生時の環境と今																																												
17 } 18 }	筆記試験・まとめ																																													
<p>教科書 日本看護協会出版会 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ</p>																																														
<p>参考書</p>																																														
<p>成績評価方法 出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>																																														

科目名	栄養	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	専門基礎分野		講義			1年	
担当者	青野真紀子	資格	管理栄養士	実務経験	有・無	時間	35時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>栄養素の働きなど基礎的な知識から、臨床で必要な病院食の理解、食事と看護との関わりを学ぶ。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の食生活の変遷、健康に関する政策を説明できる。 2. 食事摂取基準に記載の各栄養素の指標について述べるができる。 3. 病院食の種類、配膳方法や栄養アセスメントについて説明できる。 4. 特殊栄養療法が適応される疾患と特殊栄養療法の種類・特徴を述べるができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序章 食生活と栄養の意義 2. 第1章 食生活について 3. } 第2章 食事摂取基準 4. } 5. } 栄養素とその代謝① 6. } 第3章 栄養素とその代謝② 7. } 栄養素とその代謝③ 8. } 栄養素とその代謝④ 9. } 第4章 病院食① 10. } 病院食② 11. } 食事療法 12. } 第5章 食事療法 13. } 食事療法 14. } 食事療法 15. } 食事療法 16. } 食事療法 17. 第6章 特殊栄養法 18. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>メジカルフレンド社 看護学入門2 栄養／薬理</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	薬物療法	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	専門基礎分野		講義			1年	
担当者	藤本嘉裕	資格	薬剤師	実務経験	有・無	時間	35時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>薬の特徴や作用機序、目的や効果、副作用を系統別に学び、また薬物の取扱い方について理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理作用、体内動態を説明できる。 2. 薬物効果に影響する因子を列挙できる。 3. 薬物に関する法律を述べることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 第1章 薬物に関する基礎知識① 2. } 第1章 薬物に関する基礎知識② 3. 第2章 医薬品の適正な使用に必要な基礎知識 4. } 第3章 神経系・筋に作用する薬品① 5. } 第3章 神経系・筋に作用する薬品② 6. } 第3章 神経系・筋に作用する薬品③ 7. } 第4章 代謝系・内分泌系に作用する薬物① 8. } 第4章 代謝系・内分泌系に作用する薬物② 9. 第5章 炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物 10. 第6章 循環器系に作用する薬物 11. 第7章 血液・造血器官に作用する薬物 12. 第8章 呼吸器系に作用する薬物 13. 第9章 消化器系に作用する薬物 14. 第10章 泌尿・生殖器に作用する薬物 15. 第11章 抗感染症薬 16. 第12章 消毒薬 17. 第13章 抗悪性腫瘍薬 18. 第14章 漢方薬 18. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>メジカルフレンド社 看護学入門2 栄養／薬理</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	薬物と看護	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			2年	
区分	専門基礎分野						
担当者	青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	20時間
担当者	村上比奈恵	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>各疾患ごとに使用する薬物を理解し、看護の現場で注意すべきポイントについて学ぶ。 患者の疾患別に、必要な薬物療法について理解する。 医療事故を起こさないための防止策を学ぶ。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <p>1. 適正な薬物投与量を計算できるようになる。 2. 患者のアドヒアランスに影響を及ぼす要因を説明できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><青野容子></p> <p>第2編 薬物療法と看護</p> <p>1. 第1章 安全な与薬に必要な知識 ↓ 第2章 脳神経疾患 第3章 代謝・内分泌疾患 第4章 膠原病・感染症 第5章 循環器疾患 第6章 血液・造血器疾患 第7章 呼吸器疾患 第8章 消化器疾患 第9章 腎・泌尿器疾患 第10章 女性生殖器疾患 第11章 悪性腫瘍 第12章 感覚器疾患</p> <p>9. ↓ 10. 筆記試験・まとめ</p> <p><村上比奈恵></p> <p>第3編 薬物をめぐる医療安全</p> <p>11. } 12. } 糖尿病について演習 13. } 14. } 15. } 輸液ポンプ等演習 16. } 17. } 注射演習 18. }</p>							
<p>教科書</p> <p>メジカルフレンド社 看護学入門2 栄養／薬理</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験・演習評価表などで評価する。</p>							

科目名	疾病の成り立ち I	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			1年	
区分	専門基礎分野						
担当者	松野剛	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	12時間
担当者	北見裕	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	12時間
担当者	武田定典	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	11時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病発生の原因、経過、生体の反応についての基本的な知識を得る。 ・ 感染症と病原微生物の関係、および感染防止の対処法について基本的な知識を得る。 ・ 臓器・器官別に、疾病の病態を学ぶ。 							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の概要・基本的病変について理解できる。 2. 臓器別主要疾患の疾病のなりたちや、基本的な概念について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><松野剛></p> <p>病理学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 疾病の成り立ちを学ぶ 2. 第2章 病気の種類とその要因 3. 第3章 先天異常 4. 第4章 退行性病変と進行性病変 5. 第5章 循環障害 6. 第6章 炎症 7. 第7章 腫瘍 8. 第8章 炎症 6. 筆記試験・まとめ <p><北見裕></p> <p>病理学各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 呼吸器障害 2. 第2章 循環器障害 3. 第3章 消化器障害 4. 第4章 血液・造血器疾患 5. 第5章 内分泌・代謝疾患 6. 筆記試験・まとめ <p><武田定典></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第6章 腎・泌尿器疾患 2. 第7章 脳神経疾患 3. 第8章 女性生殖器疾患・乳腺疾患 4. 第9章 運動器疾患 5. 第10章 感覚器疾患 6. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>メヂカルフレンド社 看護学入門3 疾病の成り立ち</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	疾病の成り立ちⅡ	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			2年	
区分	専門基礎分野						
担当者	藤谷登	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	35時間
<p>授業の目的・ねらい 各器官に生じる病変として引き起こされる疾患の変化の様子を細かく学ぶ。</p>							
<p>生徒の到達目標 1. 臓器別主要疾患の疾病のなりたちについて理解できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画） 第3章 おもな疾病のなりたち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～2. A 呼吸器疾患 3.～4. B 循環器疾患 5.～6. C 消化器疾患 7. D 血液・造血器疾患 8.～9. E 内分泌疾患 10. F 脳・神経疾患 11. G 運動器の疾患 12. H 腎・尿路疾患 13. I 女性生殖器・乳腺疾患 14. J 皮膚疾患 15. K 感覚器の疾患 16. L 膠原病 17. まとめ 18. 筆記試験 							
<p>教科書</p> <p>メヂカルフレンド社 看護学入門3 疾病の成り立ち メヂカルフレンド社 看護学入門8 成人看護Ⅰ メヂカルフレンド社 看護学入門9 成人看護Ⅱ メヂカルフレンド社 看護学入門10 成人看護Ⅲ</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法 出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	感染と予防	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	専門基礎分野		講義			1年	
担当者	徳永英幸	資格	食品衛生監視員 任用資格	実務 経験	有・無	時間	31時間
担当者	馬木和則	資格	臨床検査技師	実務 経験	有・無	時間	4時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>感染症と病原微生物の関係、および感染防止の対処法について基本的な知識を得る。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <p>1. 微生物の基礎的知識、微生物感染のしくみと予防に関する知識を得ることができる。 2. 細菌、ウイルス、真菌、原虫類の特性、疾患とその治療が理解できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><徳永英幸></p> <p>第9章 感染と予防</p> <p>1. I 微生物の基礎</p> <p>2. II 微生物と感染</p> <p>3. III 感染症法・検疫法</p> <p>4. IV 感染予防</p> <p>5. V 感染症の検査・診断</p> <p>6. VI 感染症治療</p> <p>7. VII 感染症診断に利用される免疫学的検査</p> <p>第10章 感染症の原因となる病原微生物</p> <p>8. } I 細菌</p> <p>9. }</p> <p>10. } II ウイルス</p> <p>11. }</p> <p>12. } III 真菌</p> <p>13. }</p> <p>14. IV 原虫</p> <p>15. V ブリオン</p> <p>16. 筆記試験・まとめ</p> <p><馬木和則></p> <p>1. 第11章 臨床病理検査</p> <p>2. 臨床検査センター 見学</p>							
<p>教科書</p> <p>メヂカルフレンド社 看護学入門3 疾病の成り立ち</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	保健医療福祉のしくみ	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			2年	
区分	専門基礎分野						
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健、医療、福祉の制度やしくみから地域保健や社会保障を学ぶことで、患者の社会的な背景を把握し、准看護師とのかかわりを理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療のしくみを学ぶ意義が理解できる。 2. 公衆衛生と保健のしくみについて理解できる。 3. 医療のしくみについて理解できる。 4. 社会保障と社会福祉のしくみについて理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>医療のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 現代医療とヘルスケア 2. 第2章 現代医療のしくみ 3. 第3章 現代医療の倫理 <p>公衆衛生のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 第1章 公衆衛生とは 4. 第2章 環境と生体 5. 第3章 疾病の予防 6. 第4章 人口と衛生統計 第5章 保健活動 <p>社会福祉のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 第1章 現代社会における社会福祉の意味 8. 第2章 社会福祉の発展 9. 第3章 社会福祉制度と実施体制 10. 第4章 社会福祉の援助とソーシャルワーク 11. 第5章 社会保険と関連制度 12. 第6章 これからの社会福祉 13. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>メヂカルフレンド社 看護学入門4 保健医療福祉のしくみ/看護と法律</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	看護と法律	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			2年	
区分	専門基礎分野						
担当者	瀬野哲郎	資格		実務経験	有・無	時間	15時間
担当者	田淵正実	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	5時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護職に関わる各種関係法規の内容を理解する。 准看護師としての責任を果たすために必要な法制度に関する知識を身につける。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <p>1. 准看護師の業務を法令に基づいて理解するとともに、その役割と機能を説明できる。 2. 保健師助産師看護師法をはじめとする保健医療体制に関連する法規を中心に、わが国の医療・看護に関わる法規と、それらに関連する制度について理解できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><田淵正実></p> <p>1. 序章 なぜ法律や制度を学ぶのか 2. 看護業務に関係する法（保健師助産師看護師法） 3. 筆記試験・まとめ</p> <p><瀬野哲郎></p> <p>1. 第1章 生活者の健康に関する法規（保健衛生関係法規）とは 2. 第2章 保健医療提供制に関連する法規 3. 第3章 保健衛生対策に関連する法規 4. 第4章 医薬品・医療機器等に関連する法規 5. 第5章 保険・福祉等に関連する法規 6. 第6章 雇用・労働に関連する法規 7. 第7章 生活衛生・環境保全に関連する法規 8. 筆記試験・まとめ</p>							
<p>教科書</p> <p>メヂカルフレンド社 看護学入門4 保健医療福祉のしくみ/看護と法律</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							